



がんめんしんけいまひ 顔面神経麻痺



★顔面神経麻痺とは？

顔を動かす表情筋へ信号を送る顔面神経が何らかの原因によって障害され顔の筋肉の動きが麻痺して（主に片方のみ）動かさないことをいいます。

★原因

原因としては、脳腫瘍や特別な神経の病気に随伴して生じる事もありますが、多くは原因不明でありベル麻痺あるいは特発性（医学的に原因が解からない時にこう呼びます）顔面神経麻痺と呼ばれています。

しかし、現在では研究が進み麻痺の大多数は、ウイルス（カゼなどを起こす病原体です）感染により生ずることが明らかとなっています。

原因となるウイルスは①単純性ヘルペスウイルス1型、②水痘帯状疱疹ウイルスがあります。

①単純性ヘルペスウイルス1型によるものは従来よりベル麻痺と呼ばれていたものです。

②水痘帯状疱疹ウイルスによるものは特別にラムゼイ・ハント症候群と呼ばれています。顔面神経麻痺に随伴して、耳介や外耳孔の周辺に疼痛を伴う水疱が生じるのが特徴です。一般に麻痺の程度が強く重症化しやすいので注意が必要です。

これらのウイルスは普段は、神経の中に潜伏しておとなしくしていますがカゼや病気などで体の免疫機能が低下すると活性化して、顔面神経麻痺を起こすと考えられています。

★症状

- ・額にしわを寄せられなくなる（図①）
- ・閉眼が不十分になる（図②）・眉が下がる ・目が乾く
- ・頬が動きにくく膨らませることができない（図③）
- ・口角が垂れ下がりヨダレが垂れる（図④）
- ・「イー」「ウー」「エー」などの口の形が作れない
- ・口を尖らせて口笛が吹けなくなる
- ・口角より食物（飲み物）が漏れる・味が分かりにくい
- ・歯の麻酔がかかっているような肌感覚になる
- ・音が大きく聞こえる、大きな音に驚くことが増えた など



※図

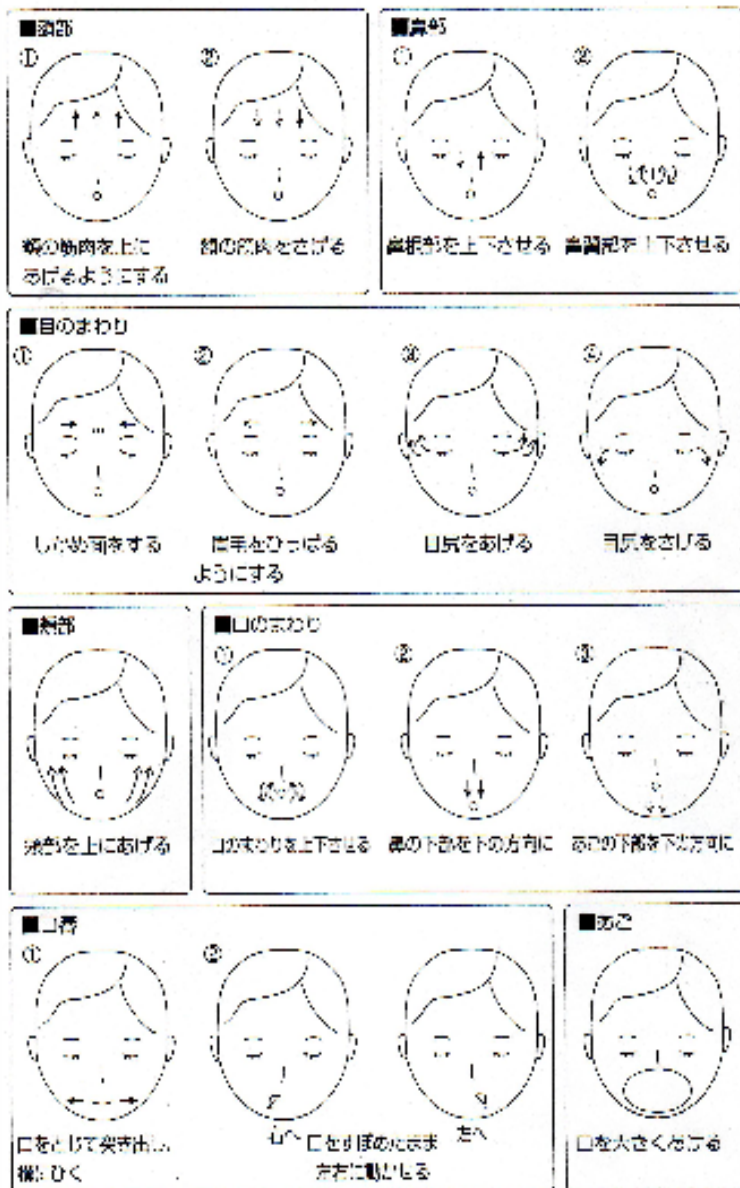


図 顔面マッサージの例

通常の特発性麻痺では、早期の治療開始が早期の回復を促しますので、早期診断・早期治療が肝心です。発症後は根気よく治療を続けることが重要です。

★治療

・薬による治療：

ステロイド剤、抗ウイルス剤、ビタミン剤などの薬を使用します。閉眼が不十分となり、角膜が傷つくことがあるため、目薬を使用する場合があります。

・入院や手術による治療：

基本的には外来で治療可能な場合が多いのですが、検査が必要な場合、診断がはっきりしない場合、顔面神経麻痺の程度が強い場合などは入院が必要となる場合があります。

・リハビリテーション：

筋の循環、代謝回復を図り、顔面对称性の回復を促進し筋肉が強ばるのを防ぐためにマッサージや温熱療法（温かいタオルで顔を温め、血行を促す）などを行いながら、回復を待つこともあります。

医療法人社団幸心会 江別脳神経外科

江別市中央町1-12（3番通り沿い）

TEL(011)391-3333 FAX(011)391-3311

<http://www.myclinic.ne.jp/neuroebetsu/pc/>

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 2:00~6:00	○	○	○	/	○	/

